

地下水からの水銀検出について

沖縄県内で地下水から有害な金属である水銀が地下水環境基準値(0.0005mg/L)を超えて検出されている地点が6地点あり、現在継続的に調査を行っています(表1)。

本島中部の石川市では井戸A, B2地点で水銀が検出されています。その原因は、井戸近くに存在する断層に沿って、地下深部から上昇してきた水銀蒸気が地下水に溶け込んだためと考えられています。つまり、自然由来である可能性が高いと思われます。しかし、残りの沖縄市の4地点(C, D, E, F)については水銀が検出される原因は今のところ不明であり、今後の

課題として原因究明に努めていきたいと考えています。

水銀には大きく分けて無機水銀と有機水銀があります。有機水銀は水俣病の原因物質で非常に毒性が強いのですが、これまで沖縄県内で検出されたのはすべて無機水銀であり、有機水銀が検出されたことは一度もありません。

全国的にも地下水から無機水銀が検出される事例はいくつか報告されており、その原因は自然由来、又は不明としているところが多いようです。
(水質・赤土研究室)

地点名 年度	石川市 A	石川市 B	沖縄市 C	沖縄市 D	沖縄市 E	沖縄市 F
1999	0.0077	-	0.0008	0.0009	0.0005	0.0007
2000	0.013	0.0013	ND	0.0006	0.0013	ND
2001	0.0049	0.0005	0.0010	0.0016	0.0015	ND
2002	0.0031	ND	0.0017	0.0005	0.0007	ND
2003	0.0021	ND	0.0008	0.0005	0.0006	0.0006

平成16年度

過去5年間の地下水定期モニタリング調査結果(年平均値)。

(第2回)JICA研修: mg/L。 ND: 検出せず。

衛生環境分析技術者 コース」の修了



左からタイのクンさん、マレーシアのマラさん、オマーンのナーサさん、中国のリーさん、ケニアのジョイスさん、オマーンのファハドさん。

平成16年度(第2回)JICA研修『衛生環境分析技術者 コース』が7月26日～10月22日の約3ヶ月間、実施されました。当年度はコースを一新した昨年度に続き2回目、通算22回目の実施となりました。これまでに受け入れた研修員は33ヶ国から延べ116名となりました。

今回は、中国1名(感染症)、ケニア1名(食品化学)、マレーシア1名(水質汚濁)、オマーン2名(水質汚濁、土壌流出モニタリング)、タイ1名(大気汚染)の計6名の研修員がそれぞれ五つのサブコースに分かれて、技術研修を無事修了しました。
(企画情報室)

発行 沖縄県衛生環境研究所
901-1202 大里村字大里2085
TEL(098)945-0781
FAX(098)945-9366